

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2024年7月12日
【四半期会計期間】	第3期第1四半期（自 2024年3月1日 至 2024年5月31日）
【会社名】	株式会社ピクルスホールディングス
【英訳名】	PICKLES HOLDINGS CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 影山 直司
【本店の所在の場所】	埼玉県所沢市東住吉7番8号
【電話番号】	04(2931)0777(代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役経理財務部長 三品 徹
【最寄りの連絡場所】	埼玉県所沢市東住吉7番8号
【電話番号】	04(2931)0777(代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役経理財務部長 三品 徹
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第2期 第1四半期連結 累計期間	第3期 第1四半期連結 累計期間	第2期
会計期間	自 2023年3月1日 至 2023年5月31日	自 2024年3月1日 至 2024年5月31日	自 2023年3月1日 至 2024年2月29日
売上高 (百万円)	11,485	10,812	43,028
経常利益 (百万円)	789	520	1,771
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	526	362	1,175
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	515	368	1,202
純資産額 (百万円)	17,521	18,347	18,254
総資産額 (百万円)	27,358	28,976	27,713
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	41.94	29.14	94.29
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	41.07	28.31	91.98
自己資本比率 (%)	63.0	62.0	64.6

(注) 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

主要な関係会社における異動については、当第1四半期連結会計期間において、株式会社尾花沢食品が株式会社ビックルスコーポレーションにより吸収合併され消滅したため、子会社が1社減少しました。この結果、2024年5月31日現在において、当社グループは当社、子会社15社及び関連会社3社により構成されることとなりました。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 経営成績の分析

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境が改善するなか、各種政策の効果もあり、景気は緩やかな回復の動きが見られました。しかしながら、原材料・エネルギー価格の高騰の長期化に加え、金融資本市場の変動による影響など、景気の下振れリスクが懸念され、先行きは不透明な状況が続いております。

食品業界におきましては、インバウンド需要の回復により外食需要は堅調に推移しているものの、内食需要は、食料品価格やエネルギー価格など、さまざまなものが値上げされたことによる不安感から生活防衛意識が高まり、消費者の節約志向が強まっております。この影響を受け、漬物などのご飯まわりの関連製品についても、引き続き厳しい事業環境となっております。

このような状況のなか、当社グループは、北海道から九州まで全国に展開している製造・販売のネットワークを活用し、新規取引先や新しい販路の開拓及び既存得意先の拡販に取り組みました。

販売面では、株式会社フードレーベルにおいて、「#牛角キムチでハピネス 新生活応援キャンペーン」と題し、「牛角韓国直送キムチ」を対象として、牛角監修商品詰合せやBRUNO ブレンダーセットが当たるキャンペーンを実施しました。さらに、本キャンペーンでは、フードレーベル公式インスタグラムを活用するなど、SNSを利用した販売促進にも取り組みました。

製品開発面では、株式会社ピクルスコーポレーションにおいて、開封してすぐ食べられる、サラダ感覚の浅漬の「液切りいらす おしんこ白菜」や、ホタテエキスと鶏だしの後引く旨味、おろし生姜とにんにくが入ったクセになる味わいの「帆立と鶏の旨味 3種の浅漬」などの新商品を発売しました。また、株式会社フードレーベルにおいては、一つ一つ手作業でヤンニョムを塗り込んだこだわりの一品「両名屋 匠の一本 技ものキムチ」などを発売しました。その他、コラボ商品の開発、既存商品のリニューアル等を実施しました。

新規事業では、外食事業及び小売事業を行う「OH!!!～発酵、健康、食の魔法!!!～」（所在地：埼玉県飯能市）において、2024年3月に「飯能ベーカリー POCO-POCO」をオープンし、新しくパンの販売を開始しました。

売上高は、さまざまなものの価格上昇による消費者の節約志向の影響や、コンビニエンスストア向けの売上が減少したことなどにより減収となりました。

利益については、暖冬や春先の天候不順などの天候要因により原料となる白菜や胡瓜などの野菜の価格が高騰したこと、売上高が減少したことや物流費の上昇などの影響により減益となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は10,812百万円（前年同四半期比5.9%減）、営業利益は504百万円（同32.9%減）、経常利益は520百万円（同34.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は362百万円（同31.1%減）となりました。

#### (2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて1,262百万円増加し、28,976百万円となりました。これは主に現金及び預金が401百万円、受取手形及び売掛金が663百万円、株式会社ピクルスコーポレーションの茨城工場建設工事等により建設仮勘定が247百万円それぞれ増加したことによるものであります。

負債については、前連結会計年度末に比べて1,169百万円増加し、10,629百万円となりました。これは主に買掛金が717百万円、長期借入金が293百万円それぞれ増加したことによるものであります。

純資産は前連結会計年度末に比べて93百万円増加し、18,347百万円となりました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益等により利益剰余金が63百万円増加したことによるものであります。

#### (3) 経営方針・経営戦略等

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(5) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費は80百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2024年5月31日)	提出日現在発行数 (株) (2024年7月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	12,858,430	12,858,430	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数 100株
計	12,858,430	12,858,430	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2024年3月1日～ 2024年5月31日	-	12,858,430	-	100	-	25

##### (5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2024年2月29日）に基づく株主名簿による記載をしております。

## 【発行済株式】

2024年5月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 421,400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 12,431,700	124,317	-
単元未満株式	普通株式 5,330	-	-
発行済株式総数	12,858,430	-	-
総株主の議決権	-	124,317	-

## 【自己株式等】

2024年5月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 株式数の割合 (%)
(自己保有株式) 株式会社ピッケルスホ ールディングス	埼玉県所沢市東住吉 7-8	421,400	-	421,400	3.28
計	-	421,400	-	421,400	3.28

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2024年3月1日から2024年5月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（2024年3月1日から2024年5月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人日本橋事務所により四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,754	8,155
受取手形及び売掛金	4,119	4,783
商品及び製品	380	445
仕掛品	66	79
原材料及び貯蔵品	216	237
その他	85	94
流動資産合計	12,622	13,796
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,691	4,602
機械装置及び運搬具（純額）	1,564	1,507
土地	6,527	6,527
リース資産（純額）	32	49
建設仮勘定	478	725
その他（純額）	143	134
有形固定資産合計	13,436	13,547
無形固定資産		
のれん	206	181
その他	120	111
無形固定資産合計	326	292
投資その他の資産		
投資有価証券	677	695
繰延税金資産	571	566
その他	78	78
投資その他の資産合計	1,327	1,340
固定資産合計	15,091	15,180
資産合計	27,713	28,976

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年5月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	2,892	3,609
短期借入金	1,100	1,100
1年内返済予定の長期借入金	400	557
リース債務	5	7
未払法人税等	449	168
賞与引当金	163	61
役員賞与引当金	19	-
その他	1,636	2,003
流動負債合計	6,668	7,507
固定負債		
長期借入金	1,628	1,921
リース債務	6	24
繰延税金負債	17	17
退職給付に係る負債	818	838
その他	321	320
固定負債合計	2,791	3,122
負債合計	9,459	10,629
純資産の部		
株主資本		
資本金	100	100
資本剰余金	2,803	2,803
利益剰余金	15,315	15,379
自己株式	499	499
株主資本合計	17,719	17,783
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	172	178
退職給付に係る調整累計額	2	2
その他の包括利益累計額合計	170	176
新株予約権	352	375
非支配株主持分	11	11
純資産合計	18,254	18,347
負債純資産合計	27,713	28,976

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年5月31日)
売上高	11,485	10,812
売上原価	8,985	8,559
売上総利益	2,499	2,252
販売費及び一般管理費	1,748	1,748
営業利益	751	504
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	0	0
負ののれん償却額	9	-
持分法による投資利益	9	7
受取賃貸料	8	8
その他	16	6
営業外収益合計	44	23
営業外費用		
支払利息	1	2
賃貸費用	4	4
その他	0	-
営業外費用合計	6	6
経常利益	789	520
特別利益		
補助金収入	0	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産処分損	0	5
特別損失合計	0	5
税金等調整前四半期純利益	789	515
法人税等	263	153
四半期純利益	526	362
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失( )	0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	526	362

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年5月31日)
四半期純利益	526	362
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	11	6
退職給付に係る調整額	-	0
その他の包括利益合計	11	6
四半期包括利益	515	368
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	515	368
非支配株主に係る四半期包括利益	0	0

## 【注記事項】

( 連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更 )

( 連結の範囲の重要な変更 )

当第1四半期連結会計期間において、連結子会社でありました株式会社尾花沢食品は、連結子会社の株式会社ビックルスコーポレーションにより吸収合併され消滅したため、連結の範囲から除外しております。

( 四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理 )

( 税金費用の計算 )

当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

( 四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係 )

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)、のれん償却額及び負ののれん償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年5月31日)
減価償却費	230百万円	218百万円
のれん償却額	24	24
負ののれん償却額	9	-

## (株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自2023年3月1日至2023年5月31日)

## 1 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年5月30日 定時株主総会	普通株式	276	22	2023年2月28日	2023年5月31日	利益剰余金

(2) 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

## 2 株主資本の著しい変動

当社は、2022年12月27日開催の取締役会決議に基づき、当第1四半期連結累計期間において自己株式117,700株の取得を行いました。この結果、自己株式が138百万円増加し、当第1四半期連結会計期間末において自己株式が463百万円となっております。

当第1四半期連結累計期間(自2024年3月1日至2024年5月31日)

## 1 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2024年5月30日 定時株主総会	普通株式	298	24	2024年2月29日	2024年5月31日	利益剰余金

(2) 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

## 2 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

## (セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自2023年3月1日至2023年5月31日)

当社グループは、漬物製造販売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第1四半期連結累計期間(自2024年3月1日至2024年5月31日)

当社グループは、漬物製造販売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## (収益認識関係)

当社グループは、漬物製造販売事業の単一セグメントであり、顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年5月31日)
売上高		
製品(漬物・キムチ・惣菜他)	7,842百万円	7,355百万円
商品(漬物他)	3,643	3,457
顧客との契約から生じる収益	11,485	10,812
その他の収益	-	-
外部顧客への売上高	11,485	10,812

## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年5月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益	41円94銭	29円14銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	526	362
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	526	362
普通株式の期中平均株式数(株)	12,549,158	12,437,030
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	41円07銭	28円31銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(百万円)	-	-
普通株式増加数(株)	265,580	365,692
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2024年7月12日

株式会社ピククルスホールディングス

取締役会 御中

監査法人日本橋事務所  
東京都中央区

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 新 藤 弘 一

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 工 藤 和 則

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 吉 岡 智 浩

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ピククルスホールディングスの2024年3月1日から2025年2月28日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2024年3月1日から2024年5月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（2024年3月1日から2024年5月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ピククルスホールディングス及び連結子会社の2024年5月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

---

(注) 1 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。